

地域戦略人材塾 第3回「エビデンスに基づく政策形成（EBPM）の実践例」

（講師：小林庸平先生）

コメントシートのまとめ

今回の Q&A は以下のとおりです。

Q1

合成コントロール法は職員でもやり方がわかれば実践できるものでしょうか？

A1

厳密に行おうとすると、統計的な分析スキルが必要となります。

ただし合成コントロール法でやっているのは「似たような地域の平均を取る」ことですので、たとえば自地域の類似地域（例えば周辺で人口規模が似ている地域）等の平均値と比較することなどは簡単に実践可能かと存じます。

私どもの運営に関しまして、以下のご要望がございましたのでコメントいたします。

ご意見、ご要望

ワークでどのようなこと（何を目的）に取り組むのかが分かりづらかったので、政策の紹介や情報交換の時間になってしまいました。もう少し具体的な指示があるとよかったのではないかと思います。ワークの進め方も、例えば、誰かがまず司会になってもらって、うまく回してくださいとかそういう具体的な指示をした方が取り組みやすいと思います。いくつかの自治体の方と一緒にのりかとも全く分からなかったのも、もう始めていいのかな…といった状況にもなりました。皆さんが協力的・主体的でしたので特に困ることはなかったですが、ワークショップの設計としてはどうかなあというのが正直なところ。自治体同士だしこの塾の受講生なのだから何とかなるでしょう、ということならまあその通りなのでしょうが…

また、せっかくの交流の時間にしては短かったと思います。他の自治体の皆さんとお話するのは大変有意義な時間でした。

ご当地紹介も、せっかくご準備をなさった自治体さんがしっかり話ができるように設計、促しをしたほうがよいのではないかと思います。時間が押したから退席してもよいというのは、配慮として実際のところはしょうがないとしても、なんだかなあと思いました。

講義自体は大変分かりやすく、聴きやすく、勉強になる内容でしたので、しっかり活用させていただけるよう努力したいと思います。

運営事務局から、

今回のワークショップの運営に関しまして、スタートが遅れるなどご参加の皆さまには大変ご迷惑をおかけしました。申し訳ございませんでした。

今年度初めてのご参加な自治体の方々がいらっしやる中で、ワークの運営の共有はもちろん、進行役のお願いを含め今一度意識合わせをすべきだったと反省しています。また、小グループの自治体名等を事前に皆様にお伝えすべきだったと反省しております。

今後はこのようなことのないよう改めて運営の改善をまいりますので、ご意見ご要望等いただければ幸甚です。

お国自慢のコーナーは今後の横のご関係につながるようなものになりたいと考えております。仰るとおりぜひ皆さまにご参加いただき、ご協力いただければありがたく存じます。

その他のコメントは以下のとおりです。

- ・要因等の分析をきめ細かく、深掘をして行うことが必要なのかなと思いました。
- ・データの収集をしっかりしていくということが、基本的なことではあるが非常に重要なことだと思った。
- ・エビデンスの重要性が理解できた。政策形成の際になんとか活用はしているが、これまで使っていたエビデンスの考え方が違っており、今後の活用の仕方が分かった。
- ・現在実行している事業や今後立案する事業について、どのように成果を求めていくべきか、どうエビデンスを示すべきかをよく考えていきたい。
- ・PICOに基づき、政策を分析していくことにより、その政策の目的や対象などを今一度洗い出すことができると感じた。
- ・実際に行われている政策を PICO に沿って分析したことや、他の市の政策を考えることによりさらに制作を考えていくうえで大切になってくる視野などが養えるのではないかと思う。
- ・実際に講義を聞くだけでなく、グループワークを実施することで視覚的だけでなく、体感的にも学習できたように感じる。
- ・ナッジについて少し理解ができ、本町における施策にも役立てないかなと思いました。
- ・目的を達成するために、因果関係を洗い出し、その中で主となる問題に働きかける施策を講じる事が大事だと改めて気づけました。
- ・合成コントロール法を活用することで、推計値のデータを作成することが出来ることは大きな発見でした。

- ・課題を行う上で pico の c はどうしても政策を行わなかった場合との比較とした際にどのようにしてデータを取ればいいのかわからなかったが、合成コントロール法を活用し、似たような地域から擬似的な推計データを作成すれば可能になることはヒントになりました。
- ・ナッジについては少しだけであったが、考え方などとても面白いと感じた。
案内文などに取り入れていきたいと思う。
- ・自地域で比較するために合成コントロール法を用いて取り入れていくことができれば、仮想的な状況や数値を元に政策を明確していくことが可能だと感じた。
- ・目標の達成には問題の原因となる因果関係を整理してボトルネックに働きかけないと問題は解決しないという事は、新たな気づきであった。
- ・空き家対策において、空き家調査をして県の空き家バンクに登録することになっているが、なぜ空き家になるのか問題の原因を整理してボトルネックを追求しないと問題解決にならないと感じた。
- ・エビデンスに基づく政策形成について、よく自治体で先進地区の視察を行います。それはエビデンスを得ることをしているのだと思う。また、合致するエビデンスは中々ないので、施策の結果を自分で検証まですればいいと思うがそれも時間の都合等で難しいが、これを知っているのと知っていないとでは日々の業務の中で役立つものが大いにあると思うので良い講義でありました。ありがとうございます。
- ・EBPM の考え方について、事例を踏まえながら理解を深めることが出来た。他自治体の事例を参考に、まずは自分から、将来的には全庁的に導入していきたいと感じた。
- ・全国では、政策に EBPM の考え方を導入して実績を挙げている自治体が多くいることが分かった。実際に導入し、分析・検証を繰り返していくことで、より良い政策に結び付けると考えられるため、本市においても市内での研修による考え方や仕組みの導入について提案していきたい。

以上です。どうもありがとうございました。

地域戦略人材塾 事務局